

四国遍路道研究会報告（第2回）

四国遍路みちにおける、「へんろ転がし」の工学的研究

四国遍路みち研究会

・第11番 藤井寺 ～ 第12番 焼山寺の現地調査報告

（第5回現地調査 H21.5.31）

平成21年5月31日 今回の調査は、研究会独自の企画ではない。このコースは並行する車道が無く、車での移動は鮎喰川や吉野川を大きく迂回することになる。このため、四国建設弘済会の公益事業として助成している吉野川市が主催の「最後まで残った空海の道ウォーク」という毎年5月に実施されるイベントに、研究会として参加した。市主催イベントであり、調査で他の参加者等にじゃまをしてもならず、統一行動をとるものの所期の目的を達成するため、役割分担を明確にし、スムーズなデータ収集に心がけた。この区間は、いくつもの峠を越えねばならず「へんろ転がし」の中でも最大の難所と言われている。

へんろ転がしの現地調査は、まず、見事な藤棚があり春には寺名に由来する藤が咲き誇る、藤井寺本堂横（標高40m）から長戸庵（ちょうどあん）手前までの約2.5km、高低差約450m、平均縦断勾配約20%と、焼山寺までのみちで最高標高（745m）の浄蓮庵（じ

ょうれんあん・一本杉庵）への登り勾配と、左右内川への下りを合わせた延長約1.5km、高低差約330m、平均縦断勾配約22%。次に、この川から焼山寺（標高700m）の手前までの延長約1km、高低差約250m、平均縦断勾配約25%の大きなへんろ転がしがある。しかし、苦しいばかりでなく長戸庵を過ぎると北側（振返り）に、吉野川の大河を一望できる素敵な展望空間がある。



出発地点 藤井寺

今回のおへんろでは時期的にも春真っ盛り徳島・神山町名物のスダチの花の満開時期と合致し、里山の谷筋は真っ白い花々と甘酸っぱい花の香りで埋められていた。

また、焼山寺から鍋岩に向かう梅林の中の下り坂で、県道まで下りる区間約3 km、高低差約500mの区間も大変厳しく、逆打ちでは、手前の「へんろ転がし」に匹敵すると思われる。延長約16kmの終点に近い区間のちょっと緩やかになったところに、四国遍路発祥の地といわれる衛門三郎の杖杉庵（じょうしんあん）があり、ここを横目にまた梅林の中を經由して鍋岩のバス送迎集合地点に到着した。

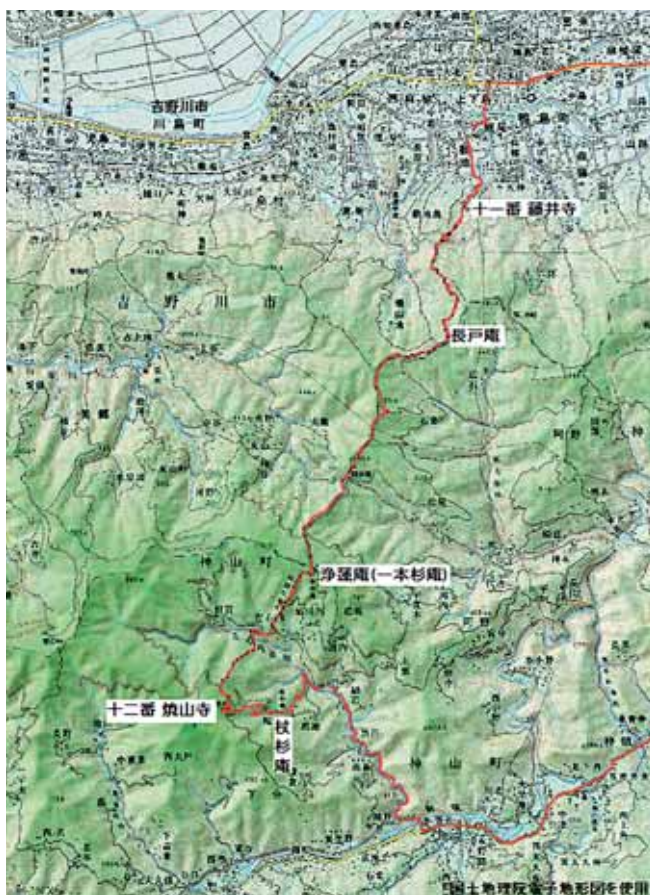
今回の行程は、食事時間も含め約6時間近く歩いたことになるが、スダチの花の季節と、紅葉の季節が特に素敵であり、この時期に歩くことをお勧めする。



難所急勾配「へんろ転がし」箇所



長戸庵 過ぎでの展望空間



十一番 藤井寺～十二番 焼山寺 縦断図